

SDA教団定時総会代議員 御中
牧師、教会長老、信徒 御中

日本教団はこのままでいいのですか？

主のみ名をほめたたえます。

皆様におかれましてはお元気でお励みのこととお慶び申し上げます。

さて、教団定時総会が迫ってきました。今回の総会は、特別に重要な総会になると思います。前回の総会は日本教団史上、かつてなかった異常な臨時総会でした。臨時総会に出席された代議員はこのことを直に感じられたのではなかったかと思えます。来たる定時総会が臨時総会のような総会であってはならないと痛感して、日本教団の再生を期待して訴えをさせていただきました。ご無礼をお赦し下さい。

今回の定時総会でも臨時総会と同じようなことが行われ、自浄化が出来なければ、日本教団の将来はないと言わざるをえません。神の民が神のみ旨に反するようなことを公然と行って繁栄した事例を見たことがありません。個人は悔い改めれば赦されます。しかし組織は、イスラエルの歴史に記されているように指導者が悔い改めなければ衰退するか、神に見放されるかどちらかであります。

私たちは、代議員が今回の総会を牧師も信徒もSDA教団の将来を決める重要な総会だと自覚し、私心を捨てて総会に出席していただきたいと願う次第であります。止むに止まれぬ気持ちで、教団を危惧する思いから僭越とは思いつつ、あえて皆さんに教団の問題点を指摘し、教団総会が民主的に運営され、神からは是認される総会になるようみんなで努力していくことが出来ればと思ってアピールさせていただきました。

特に牧師の先生方に申し上げたいと思います。安息日に講壇で説いている神の愛と義を実践していただくようお願いします。牧者としての使命と役割を真摯に熟考し、一部の人たちの圧力に屈せず勇気を持って総会に臨み、臆することなく正々堂々と自分の意見を述べ、総会が民主的に運営され、神のみ旨がなされるようご尽力いただきたいと思えます。

残念なことに総会を目前にして牧師たちが、ごく一部の牧師だと思えますが、前回の臨時総会と同じように着々と総会対策を練り、画策をしていると聞いています。これが事実であればまことに遺憾なことです。教団の総会は、一般の企業の総会と同じ総会ではありません。教団の総会は神の教会の総会です。総会を人間が行う以上人間的な思惑が入り込む余地がありますが、出来る限りそういうことを排除し、神の導きを最優先すべきであります。

近年信徒間に行政指導者と牧師に対する不信感が増幅しつつあります。その結果教団の指導者に対する尊敬の念が薄れてきていて教団の求心力が急激に低下してきています。このままほっておくと抜き差しならぬ状況が生まれ、我が教団は神から見放され、落ちるところまで落ちてしまい再生が困難になっていくのではないのでしょうか。非常に危惧しています。

現在教団の何が問題で、何が問われているのか、そのために過去を精査し現在の指導者のリーダーシップを評価する必要があると思えます。それを踏まえて今回の総会がどうあるべきか、我々はどうすべきなのかを厳しく問いかけたいと思えます。今回の問題提起は単なる批判のための批判ではありません。私たちは、この教団に何年もの間席を置き、指導者を信頼し運命をともにしてきましたが、昨今の教団の動きを見てみると、神のみ旨を痛めているのではないかと思ひ勇気を出して声を上げているのです。このことをご理解いただきたいと思えます。

I. 臨時総会の評価

定時総会が開かれる目的の一つは、過去5年間の活動を各方面から評価することです。過去5年間で最も大きな出来事は2年前に開かれた「臨時総会」ではなかったかと思えます。人事の件で臨時総会が開かれたことはかつてなかったことで、

前代未聞の出来事でした。重大な案件で臨時総会が開かれたにもかかわらず、いろいろな思惑の中で、総会が開かれた目的と問題点が十分に討議されないままに議事運営がなされ、殆どの代議員が狐につままれた状態で消化不良で終わったのではないかと思います。このことは代議員の一人が総会直後にライフ誌上に投稿した文書の中に如実に表されています。

「各界のリーダーの進退問題がクローズアップされている最中の臨時総会は、ひとしお関心をそそるものであったが、二日共、むなしい脱力感を抱いて帰途についた。それはなぜか。分厚い資料を丹念に読んでまず感じたことは、信徒不在、透明度0%、風通しの良い健全教会を推進しているはずの教団がかくも息苦しい隠蔽体質と知ったことで、それゆえにルカ8：17（隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、公にならないものはない）を実感する意義ある総会でもあった」（2004年1月号）。

また信徒のある方はライフ誌に次のように投稿しています。

「このたび総会は理事長の交替を決定いたしました。私たち信徒は何だかよくわからず、ただ事の成り行きを見守るばかりでした。総会に出席された人も、よくわからないまま終わったと言っておりました。このことに関心のある方にお話をお伺いしますと、『理事は何を考えているのかわかりにくい。もっと民主的に決めるべきだ』との意見が多く、本当にそうだと思います」（2004年2月号匿名希望）

2年前の教団臨時総会は我が教団にとって未曾有の汚点を残した総会でありました。それは油注がれた教団最高指導者を教団規則（第15条）に則らず、真実に欠ける理由を勝手につけて多数決で追放したことであります。表面上一見合法的に見える臨時総会での理事長交替の演出でしたが、そこに至った理事会の決議や経緯を注意深く見れば、一部の指導者たちのクーデター的な理事長追放計画であったことがよく分かります。総会場では大部分の信徒代議員が事情を知らないのに乗じ、規則違反の総会運営を通じ、理事長追放運動を推進したグループのシナリオ通りに運ばれた総会であったといわざるを得ません。

教団理事は混乱の責任をとって辞表を総会に提出して辞めることになってはいたはずですが、そのグループは自分たちが起こした混乱の責任を前理事長に押し付け、総会またはその後の理事会で理事長追放計画を実行した全員が重要な役職に登用されたことはまさにクーデターであったことを物語っています。総会場で米国在のトニー・イングとの「覚書」に教団代表として署名した問題を追及された人物までも総会の直後に開かれた理事会で、各方面から反対の声が上がっていたにもかかわらず重職に登用しました。自分たちは数の論理で居残りしましたが牧師と信徒の理事は全員交代になりました。これは代議員と牧師・信徒を愚弄した交替劇です。

臨時総会前後に旧理事(理事全員ではなく一部の理事)と理事長降ろしを図った人たちがとった行動の問題点に関して現教団理事で天沼教会長老の津嘉山薫氏がSDA教会牧師と長老に宛てた同封の「教団の行政運営に対する提言」で問題点を指摘して詳しく説明していますので是非ご参考ください。この問題が解決されないかぎり一致と前進は望めないはずであります。SDAの組織のあり方と教えと理念の根幹に拘わる重大な問題だからであります。

なお、私が作成し、送付した「SDA日本教団臨時総会記録」もご参照ください。

II. 現執行部の評価

定時総会の最も重要な役割は次期役員を選出することです。人が組織を動かす以上、指導者は大きな責任と力を担います。教団の指導者として誰が適任か、よく吟味して役員選出に当るべきだと思います。これが十分になされないで次期役員が短絡的に選ばれれば教団にとって悲劇です。

何よりもまず現執行部の評価がなされなければなりません。

臨時総会後の現指導者の教団運営をみますと行政手法において強引さと強権発動が目につきます。一部の人たちの理事会操作による教団運営は今後の教団再生に致命的

な傷を残しました。その事例を幾つか上げその問題点を指摘したいと思います。

1. 三育学院旧檜葉キャンパス土地の購入問題

教団理事会と学校法人三育学院理事会は、学校関係者や信徒、教役者の危惧や反対の声に耳を貸すことなく、強引に購入の決議をしました。しかも土地の確固たる使用目的もない状況下で、業者に購入期限を迫られて急いで購入したのです。1億数千万円の資金を投入しました。教団はライフ誌上で、売却時の十分の一の廉価で購入した、これは安い買い物で、「他の企業にとって無価値に近いものが、私たちにとっては有効な宝の山となって戻ってきた」と喜んでいますが。三育学院の将来構想において、高等教育機関の設置をこの場所に実現したいとしています。しかも価値のある再投資であると自画自賛しています。

果たしてこの土地が宝の山でしょうか。私たちははなはだ疑問を感じています。その理由を挙げますと、

- 1) この土地は全体が重要な埋蔵文化財指定区域で、開発には数々の制限があり、学校であれ、教会であれ、開発に当っては他の企業と同じ条件が要求されるので開発の困難が予想されます。前土地所有者（清水建設）は企業の研究所を建設するために全体の28%に当たる部分だけを遺跡発掘調査をしたが、他の部分は全く手を付けていません。教団はライフ誌上で「平地部分の発掘が終わった」と説明していますがそれは間違いで、記録によると実際には平地部分の約半分しか発掘がなされておられません。発掘が終わった部分と終わっていない部分に学校建設の開発計画を実行しようとする時には、市や県または国の文化庁に新たに開発計画を提出して開発に臨まなければいけないことになっているはずですが。発掘調査が済んでいない約三分の二の場所に開発をかけるときには発掘調査が必要です。そのためには莫大な費用がかかります。
- 2) 前土地所有者の清水建設は日本最大手の建築会社ですが、数億円かけて開発した土地をなぜ購入時の十分の一の値段で手放したのか、その理由を考えて見る必要があります。教団が説明しているように学校の建築が無条件に可能であれば彼らも研究所の建築が出来たはずですが。大金をかけて発掘した土地をなぜ10年以上も放置していたのでしょうか。発掘された場所に建築が出来るのであればもっと多額で切り売りすることも出来たはずですが。清水建設は不良債権処理問題で困っていたところに買い手が見つかり、さぞ喜んでいることでしょう。
- 3) 発掘が終わっていない場所は、土地利用のためには遺跡レベルから60センチ以上の間隔が必要です。未発掘場所が全体の約3万坪の内約2万坪残っています。土を動かさないで有効利用することは不可能で、立派で理想的な学園建設は望めません。そうかといって発掘して建設をすれば莫大な費用と長い時間がかかります。
- 4) 教団は檜葉の土地は「夢」を持つために必要だと説明していますが、実現困難な夢を持つゆとりが教団と三育学院にあるのでしょうか。この土地を未使用のまま今後何年持ち続けるか分かりませんが、フェンス設置に数千万円、維持費に毎年数百万円かかるといわれている費用を誰が負担するのでしょうか。もしこのような余分の資金があるのであれば、現に困っている幼稚園、小学校、中学校に補助したらどうでしょうか。

教団責任役員と教団理事会と三育学院は、下部の教育機関や関係者、信徒たちの反対もしくは憂慮、忠告に耳を貸さず、使用目的も決めないままに強引に購入しましたが、その責任をどう取るのでしょうか。誤った判断によって組織に損害を及ぼすことが予想されますが、その損失をどう補填するのでしょうか。

2. 三育学院の檜葉移転問題

昨今の教団の混乱や指導者の強引な強権発動的な行政手法の根源はこの問題から

起こっていると思われます。これまで臨時総会資料や教団理事会やライフ誌等の資料、公の場での教団指導者の発言、関係者からの聞き取り等から分かったことは、前理事長降しや臨時総会の開催等は実にここに原因があったことが分かりました。臨時総会で、ある信徒代議員から、今回の理事長解任騒動の本当の理由は「学校の楢葉移転問題ではないのか」との発言がありましたが、それに対して学長は明白に「全く関係がありません」と答えました。臨時総会前後の理事長降ろしを図った人たちの行動や教団理事会の理事長辞職勧告決議の経緯、臨時総会後の教団の将来計画の発表等を見る限り、その言葉が虚偽の発言であったことがよく分かります。その理由を幾つか記します。

- 1) 楢葉の丘への三育学院構想は、故金澤守恭氏がアドベンチスト・ライフ誌 2002年4月号の広場のページで発表した「楢葉の丘はカナンの地」構想に基づくものでした。内容を抜粋しますと、
「米国在住の日本の元指導者、学校関係者も日本の教育機関が生き残るには、楢葉の丘への結集が望ましいと考えておられると伝聞しました。時は満ちたと思いい、関係者と話し合いを行ってきました。・・・楢葉の丘にミッションナリSDA全体が一致することを切望します。教団の革新は緊急課題です」

下線の部分に注目してください。

- ① 教育機関の楢葉の丘への結集：教育機関とは、その後の教育局からの資料によると、光風台小学校、北浦三育中学校、広島中高、短大カレッジのことで、それらの結集であることが分かります。これが今では二転三転して、大多喜の短大・カレッジだけになってしまったようですが。
 - ② 関係者と話し合いを行ってきた：故金澤守恭氏が袖ヶ浦市の行政責任者、議会議員、業者等と根回しを終えていたことが分かります。
そして、教団指導者の一部と教育局関係の人たち、元教団指導者等との話し合いも密になされ、煮詰まっていたと思われます。
- 2) 2002年12月の教団年次理事会に学長から提出された「袖ヶ浦移転構想」によると、下記のようなスケジュールとなっています。
 - ・2003年1月：袖ヶ浦市へ提案受け入れを通知、移転の意向を表明
 - ・2004年3月：袖ヶ浦市による学院誘致案を作成、議会議案提出、承認完了
 - ・2005年4月：着工。移転作業計画立案開始
 - ・2006年春：四大化認可申請
 - ・2007年4月：新キャンパス開始（四大開学）
（最短で2007年4月、遅れて2008年4月開始）

上記のスケジュールで分かるように移転計画が急ピッチで進められていたことがよく分かります。

袖ヶ浦市の誘致の条件は、土地の提供と校地以外の道路や下水道などの環境整備は市が責任を持ち、校庭の造成と建築は学校がする、という提案でした。

- 3) この構想に基づく三育学院の移転には、資金が遺跡発掘調査以外でも数十億円が必要で、教団、学校には資金がないとの理由で移転に慎重姿勢を貫いていた理事長に、移転推進派のグループが2003年3月に結束して理事長退陣要求を突きつけたのです。慎重姿勢の理事長がいる限り自分たちの総合学園構想は頓挫してしまうとの危機感があったのでしょう。故金澤守恭氏と教育関係者が中心となって活発に動いたことがそのことを実証しています。理事長は教団の将来を危惧して彼らの計画に最後まで慎重姿勢を崩さず、その結果理事長交替を余儀なくされました。もし理事長が資金のめどが立たない状況下で、移転計画に賛同していたら教団は今頃どうなっていたでしょうか。理事長はその地位にとどまることがゆるぎされていたでしようが、教団は袖ヶ浦市の政界、業界を巻き込んだ利権がらみの中で、経済的にも社会的にも危機的な状況に陥っていたと思われる。

その他、この問題が根底にあったことは例のトニー・イングの「覚書」のこ

とからしても明らかです。この覚書の核心は、資金調達のために米国在住のトニー・イングという人に70億円～80億円を融資してもらい代わりに日本全国の学校と病院の土地財産を譲渡するという覚書でした。この覚書には教育局のリーダーたちと教団のリーダーたちが係っていたことが後に判明しました。理事長がこの問題に一切係っていなかったことは幸いでした。もし理事長が代表役員としてこの問題に関わっていたら教団は大変な状況におかれていたと思います。

3. 看護学科の四大化とその後の植葉移転計画

教団と三育学院は現在看護学科の四大化と植葉移転を推進しています。このことに関して幾つか問題がありますので、問題点を提起したいと思います。

1) 四大化は時代の趨勢であることは理解できます。しかしながら現在の状況下で学院が果たして四大化できるのか、出来たとしても維持できるのか、はなはだ疑問であります。

その理由は、

全学科で定員を大幅に割っているとの報告があります。このような低落状況下では四大化するのは危険です。四大化すれば学生が集まると踏んでいるようですが、果たしてどうでしょうか。やってみなければ分からないと学校当局は説明しているようですが、このことが事実であれば全く無責任な発言です。見通しのつかないことは避けるべきだと思います。

質のいい教員を十分に確保することが出来るのでしょうか。教員の人数は短大より倍以上必要だと聞いています。学生数が一学年80名以上なければ四大はやっていけないともいわれています。学生の確保が本当にできるのでしょうか。看護学科の学生の質が年々低下していると聞いていますが、もしそうであれば学生募集に致命的なことです。学生数を十分に確保できない、設置基準で要求されている教員数も確保できない、資金も不足、このような状況下でどうして四大化が出来るのでしょうか。

学院に対する教会と信徒の信頼関係が損なわれつつあります。これは大きな問題です。四大化を考える前に信頼関係の回復が先決ではないでしょうか。

四大化すれば学生の確保が容易に出来、すべてがうまくいくとのことなのですがもっと慎重に検討すべきではないでしょうか。四大化した途端に学校が潰れるかも知れません。なぜ成功の可能性が低い賭け的な事をするのでしょうか。短大では本当に駄目でしょうか。もう一度いろいろな観点から慎重に検討すべきではないでしょうか。短大には短大の意義と良さがあるはずですが、身分不相応なことは避けるべきだと思います。三育の原点に戻って、神学科、教育学科等も含めて看護学科の問題を各界の専門家からなる特別委員会なるものを立ち上げて早急に検討する必要があるのではないのでしょうか。今からでも遅くはないと思います。

2) 教団の教育将来構想では四大化後数年後に植葉移転構想が打ち出されていますが、上記1と2で問題提起したように数々の障害があり過ぎます。夢物語に終わってしまうのではないかと危惧しています。植葉に戻る構想の前に植葉から出て行ったことについてまず総括すべきだと思います。総括と反省なしに進めるべきではないと思います。高校と大学の移転のために東京中央教会の土地と植葉の土地を売却して移転を実現しました。そのために大きな痛みと莫大な資金が投入されました。故あって出て行った場所を買い戻してそこに戻することは通常ありえないことで、それを断行するからには総括が必要ではないでしょうか。なぜ総括をしないで強行するのでしょうか。

資金の確保はどうするのですか。信徒の献金で賄う積もりですか。神様の奇跡を待つ積もりですか。昨今の状況下では無理ではないかと思えます。リーダーは計画の前にまず神の前に謙遜になるべきだと思います。

袖ヶ浦市は市が土地を購入して学校誘致をすると提案していましたが、教団

または学校の能力のなさを見破ったのかどうか知りませんが誘致計画を撤回しました。その結果学校が土地を買う羽目になり、土地購入の問題が起こって来たのだと思います。

4. 東京衛生病院医療法人化に関わる強権発動

教団は今年2月に東京都に医療法人化申請を提出しましたが8月に却下または保留になりました。却下の理由は公表されていませんが東京都の判断は妥当であると思います。理由は以下の通りです。

1) 教団規則によると、教団の「重要事項」等は総会で決議されなければなりません(教団規則28条)。然るに教団は今回の東京衛生病院の医療法人化申請を総会の代行機関である理事会で決議して申請しています。教団の機関の中で最大の機関である東京衛生病院の経営形態が宗教法人から医療法人に替わることは宗教法人にとって病院の経営理念や運営形態が大きく変化する可能性を秘めたことであると同時に宗教法人が持っている莫大な財産(70億円から80億円と推定されている)を他法人に寄付することで、宗教法人としては莫大な財産がなくなることを意味しています。このことは我が教団にとって最「重要事項」の一つであると考えます。理事会が総会を一年後に控えていた時期に理事会が規則を適当に解釈して決議したことは規則違反であります。

2) その上理事会が決議に至るまでに経なければならないステップが幾つかあったはずですが、それらのことが十分になされなかったことは遺憾であります。

①医療法人化の問題点や危惧の声が多方面から寄せられていたにも拘わらず教団執行部は強行突破を図りました。しかしながら医療法人化申請は不許可になりました。

②この問題で病院と天沼教会が不信状態に陥り、ぎくしゃくしていて、正当に話し合いが出来ない状態になっていると聞いています。疑心暗鬼が大きくなっていて、互いの信頼関係が壊れた状態になっていると聞いています。

教団の役員は「この問題は教会が決めることではなく、教団が決めることだ、教会は関係ない」といい、病院は教会に対して「自分たちの問題ではない、教団の問題なのだから教団と決着をつけてくれ」と言っているようです。教団は強硬姿勢、病院は責任逃れ、これでうまくいくはずがありません。

このような状態で病院が医療法人になったらどうなるのでしょうか。教会と病院が別法人でも互いに信頼関係があり、SDAの職員が大多数を占めていればうまくやっているとありますが、信頼関係が損なわれた状態で病院が医療法人になったら病院は教会から益々離れて行ってしまうことは明らかです。法的に法人が別ですから病院が故意に教会から離れることも出来ます。誰も止めることが出来ません。

③医療法人化する最大の理由は多額の借入れが出来ることだ、と聞いています。もし、経営がうまくいなくなり資金の返済が難しくなったときにどうなるのでしょうか。そのときには銀行管理か資金提供した団体が経営権をにぎることになると思います。そうならないと言う保証は誰もできないでしょう。

資金の問題だけであれば医療法人化をしないで資金を調達する方法が他にないのか、知恵を絞って検討する必要があるのではないのでしょうか。

参考までに、神戸アドベンチスト病院と沖縄アドベンチスト・メディカルセンターは宗教法人のままでやっていくことになっていると聞いています。他教派のキリスト教系の幾つかの病院も宗教法人で運営しています。

衛生病院の医療法人化問題に関して、総会に情報を余すところなく公開し、討議し、賛否を問うべきではないでしょうか。

5. 教勢と財政の悪化

7年前に教勢の進展と財政の健全化・建て直しを目的に機構改革がなされ、今日に至っていますが、その目的が達成されず、年々右肩下がりにあることは周知の通りであります。

特にこの数年それが顕著に現れています。日本経済が好調期にありながら什一が下がって来ています。礼拝出席者も減り、教勢も振るわない状況にあります。伝道に対する教団の取り組みが極端に弱くなってきているように思われます。今年のライフ誌一月号に教団の将来計画が発表されましたが、病院と教育の計画が大部分で、伝道に関することはわずかで、具体性がないものでした。私たちは宗教法人です。最近では、学校、学校で、伝道のことや教会のことが疎かにされている感があります。教会の成長、発展なしに機関の発展があるでしょうか。

教団の資金の使い方にも問題を感じています。什一が伸び悩んでいる最中に牧師たちは研修の名目で大挙して海外旅行へ出かけています。上記の檜葉土地購入のように確固たる目的もないのに、移転の実現性が低い土地購入に多額の資金を投じたりしています。指導者たちの出張・会議の多さに驚いています。教団は汗水を流して什一と献金を捧げている信徒の立場を考えていただきたいものです。

「予算を決定する立場にいるのだから自分たちが決めるように資金を使っても何ら問題はない、予算の決定をする権限が与えられているのだから信徒は口出しするな」と指導者たちが言うのでしたら大問題です。教団を経済的に支えているのは信徒であります。信徒はお金を出すべきだが口をだすべきでない、との姿勢でしたら確実に献金は減少するでしょう。

6. 指導者に対する信徒の不信の増幅

2、3年前の一連の事件後指導者に対する信頼関係が急激に低下してきたことは誠に残念です。我々はこれまで何十年の間指導者を信頼し、教会に何の疑問も挟まないで、神に仕え、教会を愛し、SDAこそ神の教会であると誇りに思って信仰生活をしてきました。しかしながらリーダーたちの権力争いと醜い自己保身の動きを見せられ、自分の信仰に自信が持たなくなる時もありました。

教会の指導者はまず、霊的で信仰的で、神を恐れる人でなければいけないと思います。そして誠実で、正直で、二枚舌を使わない人で、金銭に淡泊で、自分よりも教会と信徒の安寧を優先する人でなければいけないと思います。しかしながら現指導者にこれらの特性が見られないのが遺憾であります。現指導者はこのことを特と反省し、襟を正す必要があると思います。このままの状況では信徒との信頼関係が益々悪化し、深刻になっていくという恐れを感じています。

7. 現執行部の体質問題

1) 下部の者たちの意見に耳を貸さない行政手法

3年前の理事長降しの事件以来、教団に対し各方面から異議と抗議があったにもかかわらず、それに耳をかさず、「自分たちがやったことは正しかった」「何ら問題はなかった」と断言しているようですが、本当にそうでしょうか。

意見を言ったり反対する者は反対勢力・抵抗勢力と決め付け、耳を貸さない姿勢こそ問われるべきではないでしょうか。理事長降ろしの問題や医療法人化問題、檜葉土地購入問題、三育学院移転問題等で教会や他の教役者、信徒の声に耳を貸す姿勢があったのでしょうか。もし耳を貸す謙虚な姿勢があったならこれほどまでこじれていなかったはずです。

現理事長は、ライフ誌の理事長通信で次のように述べています。

「幼児性の特徴は、まず、自分の主張のみで、他者の立場を考えたり、状況に応じて自分の要求を調整したりすることができないところにあります。その要求がまともなものならよいですが、そうでなくても自分の要求が受け入れられるまで自己主張を続けるのです。場所をわきまえず、自分の感情のままにふるまう駄々っ子のようなものです」(2005年4月号)。

「何かにつけて人を非難、攻撃をしたくなる心の習慣を身に着けてしまった人もいるようですが、そういった人は価値のあることは何も完成できず、感謝もされず寂しい人生を送ることになります。・・・それがあなたです」
(2005年5月号)。

この言葉は現理事長の教会員に対する言葉です。この姿勢では耳を貸すことが出来ないでしょう。素直に聞く姿勢があれば意見を述べた信徒に対して、攻撃的になる必要はないはずです。自己弁解、自己保身に陥っているように見えます。いったい誰が「駄々っ子」なのでしょう。

2) 行政手法が非常に強引で、強権的で、独裁的である。

目的達成のためには手段を選ばず、といった行政手法が目立ちます。理事長降しのどたばた劇は最たるものでした。規則を無視した暴挙であり、赦されるべきことではありません。大きな汚点を残しました。その後も同じような強引さと規則無視がまことしやかに随所で見られます。

東京衛生病院の医療法人化は天沼教会の教会員の意見を集約することなく強行突破を図ったと聞いています。教団のやり方に異議をもっていた牧師を意のままにならないとの理由かどうか知りませんが任期一年にして更迭し、医療法人化を強引に教団理事会で決議し東京都に申請書を提出しました。しかしその結果は不許可でした。強引または強権発動は一時的には成功するかもしれないが、長い目で見れば失敗します。教会と信徒の信頼を失った教団・機関はうまくいくのでしょうか。教会あつての教団・機関であることを忘れてはいけません。

榎葉土地買収においても強引さが目立ちます。下部の教育機関のほとんどが反対もしくは疑問を持っていたにもかかわらず、強行突破を図りました。あの土地は教団が言うような「宝の山」ではありません。むしろ文化財遺跡の宝の山です。高い買い物をしたことが分かる時が直ぐに来るでありましょう。

現執行部は自分たちが規則を無視して強引に政権をとったが故に同じ手法を用いなければ政権を維持出来なくなってきたのかもしれない。

3) 情報の非公開と隠蔽体質

教団は、第二次大戦時の大本営発表のように、いいことは発表するが都合の悪いことは出来るだけ発表しない体質になって来ています。

なぜ事実を発表して教会で祈ってもらわないのか、信徒に協力をあおがないのか、不思議な現象です。今は情報公開時代です。この点で教会は大分遅れています。我が教会では民主的な行政が求められているにもかかわらず、非近代的なことがまかり通っていることが多々あります。怖いことです。

今(12月)になっても総会のプログラムも来ない、議案も来ない、代議員の名簿も来ない、この調子で実りある討議が総会でできるのでしょうか。

会場は一年前から予約していたと聞いています。今回の総会は定時総会で早くから準備が出来たはずですが。情報をコントロールしているのでしょうか。私たちは総会代議員名簿と議案を早めに代議員に配るよう要請していましたがどうなったのでしょうか。

4) 教役者が物言わぬ体質になっている。

これも異様なことです。臨時総会の直前に東教区の牧師会が開かれ発言を抑えるようにとの達しが現執行部のグループからあったようで、これが効をそうして、物言わぬ牧師になったようです。「物言わば唇寒し」で、恐怖政治の始まりです。反対意見を言うと人事で報復されると恐がっているのかもしれない。もしそれが事実であればこの教団はカルト教団になり下がったといっても過言ではありません。

5) 数の論理とグループ支配の行政

自分たちのグループ以外は除外する、意見の違う人は排除するという論理があらゆるところで顕著に見られます。SDAは「多様性の一致」の下に宣教活動してきたはずですが。反対する人は除外するとなればそれはファッションで、民主的な組織ではありません。このような状況下で健全な教会をどうして望めましょう

か。この教団は一部の人の教団ではないはず。私物化することがあってはいけません。

牧師と信徒参加型の教会を目指すべきです。信徒にいろんな賜物を持った人が沢山います。彼らのタレントを活用すべきだと思います。キリストは隔ての壁を取っ払いました。「一致」の中にこそキリストの証があるのです。

6) 責任転嫁

臨時総会後の行政の混乱と教勢の不振と信徒の指導者に対する不信の責任を前理事長に転嫁していることは卑怯な行動です。前理事長は規則に反したことをしたのでしょうか。教団に不利益を与えたことがあったのでしょうか。教団の名誉を傷つけることをしたのでしょうか。理事長にふさわしくない行動があったのでしょうか。

教団規則(第15条)に則らず自分たちの意に反するからということで抽象的な7つの理由を挙げて、不当な方法で辞職勧告を決議させ、総会が選任した理事長を罷免に追い込みました。このことは理事会の一連の決議録を見れば明らかです。そして、現在の問題の責任は自分たちにあるのではなく前理事長にあるのだと責任を転嫁しています。いいことは自分たちが、悪いことはすべて前理事長が、との姿勢では真の指導者ではありません。

下記の現白石理事長通信をご参考ください。

「リーダー自らが引き起こした今回の混乱による、教団指導者に対する不信感・・・」

(ライフ誌2003年12月号)

「そのとき採択された機構改革実行案の一つの重要ポイントは、各機関の理事長として多忙を極める教団理事長を助け、教団の本来の使命である宣教を全国的に推し進める専任の伝道局長の任命でした。2001年立川で開かれた34回総会で、私は理事長の職を解いていただいたのですが、翌年編集長として再び教団理事に戻ったとき気がついたことは、伝道局や責任役員会の位置づけ等、機構改革実行案に対する代表役員と他の指導者間の見解の相違でした。その結果として次第に組織が機能しなくなってしまう、それが一昨年の(3)不幸な臨時総会の開催までに至ってしまった一つの原因ではなかったかと思っています。いずれにしても長年教団本部で働く指導者の一人として、教団の指導層に対する信頼を弱めるようなことが起きてしまったことを心よりお詫び申し上げたいと思います」

(2005年11月号)。

悪いことは全て前理事長の所為だと言わんばかりです。多忙を極める教団理事長を助けるために任命されたはずの伝道局長が理事長と対立して混乱が生じたのです。「心よりお詫び申し上げたいと思います。」とのお詫びは「起きてしまったこと」への詫びで自分自身の行動へのお詫びとは受け取れません。

7) SDAのアイデンティティの問題

教団から送られてくるセミナーの案内や研修案内を見ますと「他教派のセミナーや研修」の案内が結構あります。最近他教派との共同のセミナーが多くなってきました。このことはリーダーたちが自分たちの教会に誇りと自信を持っていないことの証ではないかと思えます。他に学ぶことも決して悪くはないが、その前にSDAとしてのアイデンティティをしっかり持つ必要があると思えます。

今後SDAはどこへ行くのでしょうか。指導者たちの姿勢が問われています。余りにもリベラル過ぎませんか。SDAは己の使命とアイデンティティを失いつつあります。

臨時総会後、伝道や財政、教会の霊性、信徒との信頼関係、プロジェクト推進、構造改革、牧師の士気、信徒の伝道参加等で以前よりよくなってきたでしょうか。

教団規則(憲法)を無視して最高責任者を追いやった人たちがどうして正しい行政が出来るでしょうか。下の者に規則を守るようにとどうして言えるでしょうか。規律が乱れてくるのは当然です。士気も上がらないでしょう。現執行部は教団の凋落傾向

と混乱の責任をどう取るのでしょうか。

Ⅲ. 次期教団総会に望む

5年に一度開催される教団総会は我が教団にとって最も大切な意思決定会議であります。我が日本教団の憲法である規則の改正は総会だけでしかできません。重要事項も総会で決定されるのです。教団の役員と部長職の改選は総会の最も大切な案件です。ですから代議員は大切な役目を担っているのです。私たちは教会を代表して代議員になっていますので教会員の意見を良く聞いて出席すべきだと思います。

それゆえに総会開催に当って下記のことを強く要望します。

1. 教団総会が民主的に公明正大に開催され、運営されることを望みます。
前回の臨時総会は全部が異様でした。代議員は「変だ」と感じていながら、それを正すこともできず、討議する時間も制限され、いつの間にか終わってしまいました。これが残りの教会、神の総会かと疑いました。今回は前回の臨時総会を反省して総会運営に係わる者と代議員全員が協力して民主的、公平な総会を作り上げていく努力が必要だと思います。代議員は傍観者であってはいけないと思います。責任があります。
2. 総会議長はあくまで中立の立場に立って、自由に討論が出来、自由に発言が出来よう議事を進めていただきたいと要望します。議長の采配を注意深く見守っています。前回の臨時総会は非常に不自然であり、信徒代議員はよく発言したが牧師たちは黙りを決め込んで、ほとんど発言をしませんでした。臨時総会直前に牧師に対し口封じと発言の自粛と統制があったと聞いています。これでは民主的な総会とはいえません。今回は教会指針の精神が生かされた総会になるよう切望します。
3. 総会が規則に則って運営されることを期待しています。討議の時間を十分に取るよう時間の配分をお願いします。臨時総会のように討議に制限がありすぎではありません。
4. 過去5年間の総括と評価そして今後の課題が十分討議されて、それから役員推薦の作業に入るべきであります。推薦委員会が教団の問題点や今後の課題についての討議がなされる前に開かれることがあれば、役員推薦委員会は総会場のニーズと違う形で役員を選ぶことになりかねません。その点を十分配慮することが肝要かと思えます。
5. 傍聴席を前回の臨時総会のように十分に設けていただきたい。
6. 全教会に総会のための祈祷のアピールをお願いいたします。
今回は特に全教会員の祈りが必要です。
7. プログラムと議案が総会1月前になってもまだ送られてきていませんがどうしたことでしょうか。下記の点については是非討議していただきたいと要望いたします。
 - 1) 臨時総会の総括
 - 2) 現教団機構の見直し
 - 3) 教団三役の選出方法についての討議（役員選出に入る前に）
 - 4) 東京衛生病院の医療法人化問題
 - 5) 檜葉土地購入問題
 - 6) 三育学院の四大化と檜葉移転計画問題
 - 7) SDAのアイデンティティの問題

むすび

私たち信徒は今回の総会に危機感を感じております。前回の臨時総会に出席した者として、前回の臨時総会の感想を表現しますと、「異様、困惑、虚しさ、人為的戦略、グループ支配、神不在」の一言でした。

今回の総会で同じことが繰り返されては絶対にいけないと思います。自浄化が発揮されないとこの教団はどうなっていくのでしょうか。このことを教会員は真剣に考える必要

があります。

日本教団はこのままでいいのでしょうか。代議員は責任があります。ただ座して見ていては何も変わりません。総会を皆で民主的な総会に作り上げていく努力をすべきだと思います。

私たちは総会の決定には一致してそれをサポートすることが大切であると信じます。そのためには総会が民主的で公明正大に祈りのうちに運営されることが大前提です。

今日ほど危機的状況にある日本教団はかつてなかったと思います。神の前に反省と悔い改めが必要だと思います。総会が神のみ手の内に導かれるように、全教会が祈りに参加するよう願っています。ダニエルが第9章で祈ったようにみんなで祈る必要があります。

この総会が真の一致と再出発の総会となるよう祈り、期待しています。

神様のお導きをお祈り致します。

私たちは、現執行部からお叱りを受けることを覚悟の上で、教会を愛する思いで、敢えて訴えをさせていただきました。ご無礼をお許しください。皆様のご参考になれば幸いです。

2005年12月1日

<u>節子</u>	<u>島田光江</u>	<u>新城澄男</u>	<u>比嘉</u>
(教団総会代議員)	(教団総会代議員)	(教団総会代議員)	(教団総会代議員)
	<u>宮城嗣幸</u>	<u>新井恵美</u>	
	(教団総会代議員)	(与那原教会信徒)	

文責 宮城嗣幸

住所 〒901-1303

沖縄県島尻郡与那原町字与那原579-1

電話・FAX 098-945-5745

メールアドレス shiko_miyagi@ybb.ne.jp